

学校関係者評価委員会まとめ

1日 時：2月26日 15：30～

2場 所：湖東中学校校長室

3出席者：北村知憲（賀露小学校長）、豊福聡（末恒小学校長）、
護田彰一（湖山西小学校長）、野崎淳介（鳥取商業高等学校長）、
谷輝久（鳥取湖陵高等学校長）、
福田悦育（湖山小学校長）欠席

学校教員：平井光一校長、小椋幸人副校長、山本亨教頭、河中俊文教務主任

4話し合い内容：

○中学校と同じで遅刻が多くて困っている。何かしら手だてはないものか。

<高校>ほとんど遅刻なし。高校は社会に出るという目標がぶら下がっている。社会に出て時間が守れないようでは通用しない。心構え等うるさく本人に伝えている。スモールステップで目標を与えることが大事ではないか。

<高校>1日10人と遅刻が多かった時もあり、時間を守ることの大切さを文書で出した。

<高校>小中学校の教員は、情報収集が内向きで受け身である。自分たちが企業や会社のことをもっと研究することが大事である。キャリア教育と言いながら、教員の問題である。教員がもっと社会を知り、もっと企業や会社研究をして子供たちに教えることが大事。

<高校>あいさつ、時間、身だしなみが何より大事。

<高校>以前の高校は小学科制だった。15歳で自分の行き先を決める力があつたが、最近はそういう力がなくなって、普通化志向になっている。実業高校では明確な目標を持っている。

<高校>評価指標をすべて数値目標にすべき。例えば90%以上ならA あいまいにしない。
外部から見て基準が明確になるように数値目標を決めておくこと。

→教員が話し合っただけで評価してもそれは評価ではない。生徒の評価、保護者の評価、教員の評価の3つを分析して数値目標を明確にすることが大事。

○管理職は民間の経営者という意識が必要。忙しいことはいいことだ。企業や会社では忙しいということはいいことである。

<高校>5月キャリア教育の指針が出た。2045年問題。今の小学校4、5年の児童が直面する問題。だから、小学校でのキャリア教育は大事である。

遠近両用眼鏡が必要。将来のことを考えて今の子どもの指導にあたるのが大事。

<高校>地方創生と言われており、鳥取は喫緊の課題だ。もっと小中学生が議論することは大事ではないか。世の中の動きを察して子どもたちの教育にあたることは重要である。

教員が社会とのつながりが疎い。もっと社会を知り、子どもたちに指導してほしい。

○小中高と児童生徒の発達段階によって課題が違ってくる。発達段階を見通して共通の課題を探って追究していくことが大事ではないか。

○「教員になりたい」という子どもが少ない。教員の魅力が子どもたちに写っていない。教員の意識を疑ってみることは大事である。

<高校>高校の弱点は親とのかかわり。食育に特化してPTA活動を行う予定。親の力を孝行に入れたと考えている。